

## 「常識を変える」

江南高校に入学し一年が経ち、二年生になり新たな環境で学校生活を送っていた当時の私は「自分はこのままでいいのだろうか」という漠然とした焦りを抱えており、周りの友達も志望校を決め着々と受験勉強を始めていく中で自分だけが置いていかれているような感覚で毎日を過ごしていた。このままの自分ではいけないと、自分を変えるきっかけにするべく私はSSH 台湾海外研修への参加を決心した。

この挑戦は、日本国内での事前学習からすでに始まっていた。Google Shibuya への訪問では、世界を変える企業の「スピード感」と、そこで求められる「主体性」の重みを痛感した。日本の支社なのでもちろん日本語も使われているが、社内では人と人とのコミュニケーション手段や業務上での言語として、圧倒的に日本語より英語の印象が強く、グローバルな企業であることを実感した。主体性が重視されるという観点は学生からすると一見、知識や技能の補助的な評価観点であるように思えるが、実際は残酷なものであると私は思った。言うまでもなく英語が堪能である必要性はあるがそれよりも大事なことは、どのように世界に貢献できるのか、自分の価値を証明し続けたいと、あっという間に周りに追い越されそこでの自分の存在意義が失われることだ。今まで自分は英語を「テストのための科目」としか捉えていなかったが、この訪問を経て英語は自分の可能性を世界という土俵に持ち込むための「一つの手段」であると解釈を改めるとともに、生半可な思いではこの研修を乗り越えられないと気づき、海外研修への意識を変えるきっかけとなった。

また、Kinnick High School の生徒との交流では、流暢に話すことよりも、稚拙な英語であっても自分の意志を相手に伝えようとする姿勢が重要であることを学んだ。

事前学習として江南高校では先生方から様々なことを教わった。英語の学習は言うまでもなく、統計的なデータの分析や効果的に自分の研究を伝えるためのスライド作成の補助など、海外研修だけでは完結しない応用的なことまで手厚くサポートしていただいた。

台湾到着後、最初に訪れた新北市立林口高級中学では、現地の生徒と同じ教室で授業を受けるという貴重な体験をした。私は当初、英語で行われる授業や交流に抵抗感があり、話についていくだけで必死だったが、バディの子が優しく丁寧に接してくれ、こんなに身構える必要は無いのだとリラックスすることができた。そこからは、授業中のグループワークや休み時間や移動時間のアットホームな会話を通じて、私は彼らと心を通わせることができた。お互いの国の文化や趣味などについての話は特に盛り上がった。完璧な英語が話せなくとも、ジェスチャーを駆使したり、表情や伝えようとする姿勢からも相手は理解しようとする真摯な姿勢を見せてくれて、言語の壁と海を越えて私は信頼関係を築くことができた。この「通じ合えた」という確信は内向的だった私に大きな自信を与えてくれた。異文化を理解するとは、知識として相手の国を知るだけでなく、一人の友人として相手と向き合うことから始まるのだと私は知ることができた。

本研修の最後にして最大の山場は、国立台湾科技大学(NTUST)での研究発表であった。大学教授や現地の大学生を前にした発表は、これまでにない緊張感に包まれた。私の発表に対し大学生からは「このデータは再現性があるのか」や「試料の選択根拠はなにか」など、専門的かつ本質的な鋭い質問をされた。日本での準備は万全にしてきたつもりであったが、世界の第一線で研究を行う方々の視点はより厳格で多角的であった。しかし、その厳しさは私達の研究を否定するものではなく、より高いレベルへ引き上げようとする期待の裏返しであった。このフィードバックを通じて、自分の探究活動を客観的に見つめ直す重要性を学び、不十分だった論理の穴を明確にすることができた。この経験は、今後の探究活動において「リサーチクエスション」や「問い」を立てる際の指針となるだろう。

台湾での研修の締めくくりに訪れた Google Taipei では、事前学習で訪れた Google Shibuya との差異を感じることはほぼ無かった。国の枠組みを越え、様々な国籍の社員(エンジニア)の方々が同じ場所で活動している環境はどちらの支社でも変わりがないためであると思う。また、どちらの支社でも強調されていたのは「ユーザーの課題をどう解決するか」という徹底した人間中心の視点と、失敗を恐れず様々なことに挑戦し続ける姿勢の重要性であった。現地の社員の方が語った「自分の興味のある目の前のことを全力でやりきる」という言葉は私に大きな衝撃を与えると同時に強く脳裏に焼き付いている。SSHの活動を通して培ってきた「探究心」を今後大学や社会で活かすための答えの一端を、自由で創造的なこのオフィスで得られたような気がする。

振り返れば、この SSH 台湾海外研修は常に私の常識を塗り替えるものであった。教科書を読んだりネットで調べるだけでは決して得られない、現地での体験と対話こそが私の学びをより深く意味のあるものに昇華してくれた。SSH という環境があったからこそ、私は仲間たちとともに高校生という早い段階で「世界の基準」に触れ、自分の現在地を知ることができた。

後輩たちへ。もし海外研修に悩んでいるのであれば「未知の世界へ飛び込む勇氣」を持って参加を決心してほしい。たとえ今は英語や研究に自信がなくても、研修で得られる刺激や出会いは必ず自分の未来を大きく変える力を持っている。SSH という環境を最大限に活用し、自分自身の限界を広げ世界へ飛び出す挑戦をしてほしいと願っている。

最後になるが、本研修の実施にあたりご支援をいただいた先生方、台湾の学生たち、参加を後押ししてくれた私の両親、そしてこの学びの機会をくださった全ての関係者の方々に深く感謝の意を表したいと思う。この経験を糧に私はこれからも様々なことに挑戦し、探究を続けていく所存である。

海外研修によって得たフィードバックで向上した研究の質とグローバルキャリア観  
—大学と一流企業訪問から得た経験で自身の閉鎖的思想をより対話的で挑戦的なものへ—

私は海外研修に関連する様々な経験を通して以下の3つのことを得た。

1つ目は英会話とコミュニケーションに対する意識と姿勢の変化である。事前学習で訪れた Kinnick High School では、ネイティブとの英語だけによる密接な会話を経験した。言語や文化、価値観の違うバディの話していることを注意深く聞き取り、共通の話題から対話を深めるという体験を通して自分自身の未熟さを2点経験した。第一には生きた英語を聞き取る力の欠如である。普段のリスニングの問題と違い、選択肢、問題文、まとまりのある流れも存在せず、また、高速なネイティブの発音という状況下で自分はリスニングの能力が十分でなかったと感じた。第二に相手のことを知ろうとする姿勢の欠如である。バディはとても積極的に自分の事を知ろうと質問をしてきてくれたのに対し、自分はあまり多くの質問を考えることができず、あまり深い話ではできなかった。学校案内のときにも彼の説明にただ相打ちをするだけにとどまってしまった。この経験から会話を通して新しい情報を得るモチベーションは相手のことや話題のことを知りたいという欲求なのではないかと自分は気付いた。台湾での活動ではこの失敗を生かし、新北市立林口高級中学ではバディの人に対して積極的に授業から得た話題で話しかけて、相手や相手の高校について知ろうとした。例えば、授業をしてくれた先生や日本語の話せるユニークな生徒について詳しく質問してみたり、普段の学習用端末や使っているメッセージアプリなど、気になったことをできるだけ多く聞いた。

2つ目はグローバルなキャリアの視点と新しい物事の考え方の獲得である。事前学習の Google Shibuya では最先端の IT 企業で実践されている快適なオフィスの設計、高品質なサービスの根源であるボトムアップの開発体制や、ユーザーからのフィードバックシステム、大きな目標設定と実現のための 10x Thinking の理念を学んだ。これらは自分が持っていた、製品は自分の頭でイメージできる範囲のことを自分の手だけで確実に作るという思想と反対であったため大きなインスピレーションを受けた。また、Google Taipei では社員とのディスカッションを通して、英語を学ぶには海外のような英語を使う環境に行くことが最高の選択であること、異なるバックグラウンドをもつ人同士の協働がよいものを作るのに必要であることなど、貴重な体験談なども交えて教えてもらうことができた。また、エンジニアの方から、台湾ではエンジニア人材が求められているという話は、今までのぼんやりとした将来のグローバルなキャリアのビジョンを具体化し、台湾で働いてみるのも良いかもしれないという考えを得ることにつながった。

3つ目は探究活動を通して得た、研究への向き合い方の変化と研究の改善である。日本での研究に際して、私の研究では、当初、参照する研究分野を絞りすぎていたため、やろうとしていることに完全に合致する先行研究を見つけられず、自分で実験計画を 1 からデザインしたが、うまくいかず、何度も失敗した。このことから全く同じ研究がなくても、広域に類似の先行研究を探しその手法を応用するべきだったと感じ、独創性に走らずに謙虚かつ広域に先行研究を学ぶ姿勢の大切さを痛感した。また、台湾での研究発表への準備と大学生からのフィードバックに際して、自身の作成したプレゼンを生成 AI や自分の研究とは少し違う分野の大学生に多角的に評価してもらうことで、自身の研究やプレゼンを改善することができた。例えば、生成 AI に、自分のプレゼンに関する質問をってもらうことで問題点を効率よく発見したり、自身の生分解性プラスチックに関する材料工学系の研究を機械工学系の大学生に評価してもらい、自身の研究で信頼性を高めるために不足していた客観的数値的なデータを補うべく、材料強度を数値的に測るための曲げ強度測定装置の作り方を教えてもらったり、プラスチックの分解条件を一定にするための新しい実験計画を提案してもら

うなど、実験をより客観的かつ確実なものにするための知恵をもらった。そしてこの機会を重んじるべく、もらったアイデアをすぐにメモして実験計画を整理し、不明点や知りたいことはすぐに大学生に質問した。これにより先行研究の再調査と大学生からのフィードバックを研究に取り入れる他、日本でも積極的に他者との対話を行うようになり研究の改善を進めることができた。

結論として、私はこの海外研修を通して、英語力とコミュニケーション力に対する能力の欠如と、先行研究を謙虚に倣わず独創性に走ってしまったという自分自身の未熟さを経験した。このことから事前学習や台湾での活動を通して、既存の知見や、他者との対話、フィードバックを大切にすることが研究や製品開発において重要であることを学び、そして自らのグローバルキャリアの視点を広げ具体化することができた。これは、対話とフィードバックが自分自身の成長には必要であるという事を身を以て学んだことが私にとっての最大の成果であると言える。この経験を学校生活、研究の続き、今後のキャリアに役立てていきたい。



Kinnick High School



国立台湾科技大学



Google Taipei

## 「言語の違いから学んだ、人とつながる力」

海外研修を通して、私の中で最も大きく変わったことは、英語に対する考え方と、人と関わることへの姿勢である。研修前の私は、海外や英語、探究活動そのものには興味があったものの、英語がとても苦手だという意識が強く、「失敗したらどうしよう」「正しく話せなかったら恥ずかしい」という不安を常に抱えていた。そのため、自分から行動を起こすよりも、周囲の様子をうかがいながら慎重に動くことが多く、積極的とは言えない姿勢で物事に向き合っていたように思う。しかし、台湾でのさまざまな経験は、そのような自分の考え方を少しずつ、そして確実に変えていった。

まず、事前学習の Kinnick High School での交流を通して、英語に対する意識が変わり始めた。私の英語は決して流暢ではなく、文法や発音に自信がなかった。それでも、「伝えたい」という気持ちと意思を持って話しかけると、相手はきちんと耳を傾け、理解しようとしてくれた。完璧な英語でなくても、気持ちがあればコミュニケーションは成り立つのだと実感し、英語に対する不安が少しずつ和らいでいった。

次に訪れた林口高級中学での交流では、さらに大きな壁に直面した。相手が中国語を主に使っていたため、英語が共通言語としてほとんど機能しない場面が多く、最初は戸惑いと不安を強く感じた。しかし、そのような状況だからこそ、「言語の違いがある中で、どうすれば相手に自分の気持ちを伝えられるのか」を真剣に考えるようになった。

言葉が通じなくても、現地の生徒たちは表情や身ぶり手ぶり、スマートフォンの翻訳アプリなどを使いながら、懸命にコミュニケーションを取ろうとしてくれた。どの人も本当に親切で、緊張していた私を自然と笑顔にしてくれるような、温かい雰囲気があった。私自身も、知っている英単語を並べたり、ジェスチャーを交えたりしながら、何とか思いを伝えようと工夫した。その結果、少しずつではあるが意思疎通ができるようになり、言葉が十分でなくても会話が成立する瞬間のうれしさを何度も味わった。

こうしたやり取りを重ねる中で多くの友だちができ、交流を続けるうちに、相手の文化や考え方そのものにも興味を持つようになった。そして、これまでのように受け身でのではなく、「自分から関わってみよう」と思えるようになったことは、自分にとって大きな変化だった。研修終了後も、SNS を通じて連絡を取り合い、今でも近況を報告し合うほど仲良くなった友だちがいる。短い期間であっても、言語の壁を越えて関係を築くことができたという経験は、私に大きな自信を与えてくれた。

また、国立台湾科技大学での探究発表では、自分の研究内容を英語で説明するという貴重な経験をした。専門的な内容を英語で伝えることは簡単ではなかったが、「完璧でなくても伝えようとする姿勢」があれば、相手はしっかり向き合ってくれるのだと実感した。現地の大学の方々からいただいたフィードバックを通して、探究活動には論理性や根拠が不可欠であることも改めて理解することができた。

そして、GoogleTaipei の訪問では、英語で積極的に質問をすることができた。研修前の私であれば、ためらっていたであろう場面でも、自分から手を挙げて質問できたことに、自身の変化を強く感じた。知りたいことをそのままにせず、自ら問いを投げかける姿勢が、グローバルな環境では重要であることを学んだ。

この研修を経て、私は英語力そのもの以上に、「言語の違いを恐れず、人と関わろうとする姿勢」を身につけることができたと感じている。英語が苦手だと思い込んでいた自分の中のリミッターが外れ、伝えたいという思いがあれば、方法はいくらでもあるのだと気づくことができた。今後はこの経験を生かし、多様な言語や文化を尊重しながら、さまざまな人と積極的に関わっていききたい。



## 「環境が人を育てる」

今回の海外研修では、事前学習から台湾での訪問を通じて多くの学びを得ることができた。

事前学習で訪れた Kinnick High School では私にとって英語のみで会話するという環境は初めてだったため、最初は緊張してあまり話すことができなかった。しかし、徐々にバディの人とも打ち解けられるようになり、楽しくコミュニケーションを取ることができ、英語を学ぶモチベーションにもつながった。

台湾での探究発表の準備では、私は「是認と信頼関係に相関はあるのか、生徒と教員の間には是認に対する認識に差はあるのか。」というテーマで探究を進めた。統計的手法について学び、実際に活用することができた。数値を利用し論理的に物事を分析する力を身につけることができたと思う。また、英語でのプレゼンだったため新しい単語や熟語、発音などを覚えることができた。

Google Shibuya や Google Taipei では、自由でフレキシブルな職場環境を見学した。始業、終業の時刻を自身で決められたり様々な国の食事が用意されていたりと国籍や時間の使い方が異なる人でも快適にストレス無く仕事に取り組めるような環境が整っていた。このような環境が個々の力を引き出すのだろうと考えた。

新北市立林口高級中学では同じ高校とは思えないような様々な科学的な設備やカリキュラム、教育環境が整っていた。3D プリンターで作られた DNA や AR を使用し、ウイルスを観察した。実験器具などを準備する必要もないため、もっと普及すれば、実験などに興味のある生徒がより活用できるのではないかと思った。地学の授業ではプラネタリウムで星座を見たり、ブラックライトについての話を聞いた。他にも日本とは違い、徴兵制度があるため拳銃やライフルの授業があった。多くの生徒がオリンピック選手や警察官になるそうだ。単位制の学校で自分にあったカリキュラムを選択することができるシステムが素晴らしいと思った。

各学校の探究発表では英語の発音やプレゼンの仕方が上手だった人が多く、私も抑揚をつけて発表することを心がけた。台湾の生徒はみんなフレンドリーで同世代ということもあり、短い時間だったが良い関係を築くことができた。

国立台湾科技大学では大学内を見学した。移動の最中などに気になったことを英語で質問することを心がけた。質問してコミュニケーションを取ることで自身の英語を話す自信や能力の成長を感じることができた。見学で印象に残っているのは電気分解の実験を VR で行ったことだ。簡単に様々な物質の電気分解を行うことができ、イオンや電子の流れを観察することができた。本来の実験にかかる時間を大幅に短縮できるので、日本でも取り入れれば、限られた時間の中でたくさんの実験ができると思う。探究活動の発表ではとても緊張したが、頑張って準備をしていたので終えたあとの達成感があった。発表後の大学生とのディスカッションでも「完成度の高い探究内容だったよ。」とだけ言ってくれたのがとても嬉しかった。探究内容については、「もし是認をする人が子供に良い影響を与えない是認だったらどうなるのか？」という話をした。この交流を通して今まで考えたことがなかった新しい視野や考え方に触れることができ、視野を広げることができた。

今回の海外研修を通して考えたことは、能力や実力を伸ばし、発揮するためには、取り巻く環境がとても重要な要因であるということだ。レベルの高い高校や大学、会社を訪問して共通していたことは個人個人が目指す目標に合ったシステムや実力を発揮するための設備が整っていたことだ。また、私自身も3泊4日という短い期間だったが日本語を使わない環境にいたことで以前よりも積極的に英語で話せるようになり、自身の英語のスピーキング、リスニング能力の成長を実感した。実際に研修後に受けた模試で英語の成績が向上

していたり、学校の英語の授業でディベートを行ったときに言いたいことをスラスラとすることができたことから、その変化を感じている。

私がこの海外研修に参加した理由は、将来教員になったときに学んだことを生徒に伝えられたらいいなと考えたからである。将来教員を目指す立場として、生徒一人一人が力を発揮できる環境づくりの重要性を強く実感した。また、自分から環境に飛び込むことで、新しい価値観や可能性に出会えることも実感した。

今回得た経験を活かし、生徒の挑戦を後押しできる教員になりたい。

## 「海外研修を通して」

平塚江南高校の海外研修プログラムを通して、一番の利点は自分の勉強へのモチベーションが上がったことだ。

まず初めに、事前学習で Kinnick High School を訪問した時の話だ。私は去年もこの Kinnick High School 訪問に参加させてもらっていて、なんとなく雰囲気はわかっているつもりだったが、何度行ってもすごく良い経験になると思った。主な Kinnick High School での目的は、異文化理解と英語能力の向上にあったと思う。個人的に一番大きな経験になったと思ったのはまったく学校の雰囲気が違い、大きな文化の違いを感じることができたことだ。主に違ったのは日本の大学のように授業ごとに生徒が変わり代わりすることと、授業を受けている全生徒の自主性が高いことだ。今の平塚江南高校は自分の通っていた中学校より自主性の高い生徒が増えた印象だったが、Kinnick High School の生徒は全員が全員高い自主性を持っていて、これは Kinnick High School の生徒一人ひとりが優秀、というのもあるが、日本と海外の大きな文化の違いであることを実感した。やはり自分が二度も Kinnick High School に訪れ、学んだのは異文化への理解が深くなったことだ。

Kinnick High School は二年生からしか参加できない海外研修プログラムの一つだが、前述で述べた通り自分は一年生の時から Kinnick High School 訪問に参加している。Kinnick High School 訪問海外研修プログラムとは他にも募集があり、それは一年生も参加できる。また海外研修プログラムより参加が簡単にできるため二年生の海外研修プログラムに参加してみたいやネイティブの英語を聞いてみたいが海外は治安が悪そうで怖いという生徒でも横須賀の米軍基地の中にある Kinnick High School ならその両方を解決できる。これは自分の話だが、一年生の頃に Kinnick High School に参加していなかったら、海外研修プログラムに興味を持ちつつも参加しようと考えなかった。目を通すくらいでも予習はあったほうがいのように平塚江南高校の海外研修プログラムに興味がある生徒はぜひ一年生の時から参加できる Kinnick High School には参加すべきだと私は考えている。

次に、日本と台湾両国の Google を訪れたことだ。Google を訪れる主な目的はグローバルな視点やキャリアについて理解を深めることにあったと思う。事前学習と海外研修で国の違う Google Shibuya と Google Taipei に訪れて実感したのは、世界的な大企業に務められるほど優秀な人材は海をまたいでも根本的な部分はあまり違ってないのかなと思う。Google Shibuya と Google Taipei の双方で質疑応答の時間が設けられていた。Google Shibuya で「他の Google との違いはなんですか？」という質問が出た。その質問の答えとして帰ってきたのが「言語が違うくらいですかね」とおっしゃっていた。そして Google Taipei と Google Shibuya の双方で出た「僕達私達の高校生のように若いうちにやっておいたほうがいいことはなんですか？」という質問の答えが両方とも「何事にも挑戦すべき」ということをおっしゃっていた。両方の Google での答えが似ていたので Google Taipei も Google Shibuya もいい意味で違いが小さいのかなと感じた。そこで実感したのは、優秀な人とは失敗を恐れずに挑戦し続けることができるのだということ、そしてさらに大切なのはその挑戦が失敗に終わってもただの失敗に終わらないために、挑戦した物事の全てからいろいろなことを学び、活かしていき、成功につなげていくことだ。Google Shibuya の方の経歴は高校教師をし、その後、大学にまた入って修士課程をとるなど、いろいろなことを経験して Google Shibuya に入ったとおっしゃっていた。自分は人生の目標がないのに勉強していて、あまり勉強にやる気が出ていなかったのですが、やりたいと思ったことのために努力をして、自分に正直に生き

ていくような人生との向き合い方から、今やりたいことはなにか、やりたいことのためには何をしなくてはいけなかなどを考えるようになった。この両国の Google を通して自分にとって大きかったのは今を大切に生きることがグローバルな視点やキャリアについての理解を深く深く理解することができた。

自分はこの海外研修プログラムを通して学んだのは友達の重要性もしくは友達の大切さだ。この海外研修プログラムは自分を含めて 11 人でした。先生にももちろん助けていただくことはあったが友達がいないと楽しむことができずにおそらく退屈なものになってしまうし、海外研修を通して絆を深めることができた。

勉強以外も成長できる人生での大きな経験を得ることができた。

せっかく平塚江南高校の生徒なんだから海外研修プログラムに参加しない理由がないと思う。

## 「新しい自分への出会い」

僕はこの海外研修を経験したことで、自分自身の大きな変化を感じている。海外研修に参加する前は、なんとなく建築デザインに興味があるからそれ関連の仕事に就きたい、この大学の建築学部が有名だからこの大学を志望する、などのようなはっきりとした理由を持たないものだらけの状態だった。僕にとってはこれが最近の悩みの種だった。しかし、この海外研修であらゆることを経験し学んだことで、自分はこの道に進みたいと思えるようなはっきりした理由を見つけられ、曖昧だった自分の将来がはっきりとしたものになった。ここでは、海外研修で何を経験し、感じ、どう成長したかについて述べようと思う。

まずは、台湾に研修に行く前の探究活動だ。主に、台湾の大学で発表する研究のテーマを決め、実験または調査を行い、統計的な視点からそれらの結果をまとめ、英語で発表するといった内容だ。最初は、自分の興味のあることをテーマにし、それに関連した先行研究を調べ上げることから始める。そして、先行研究を踏まえたうえで、「この内容、こうしたらどうなるんだろう。」「これはこうしたらもっと良くなりそう。」といったように、実験に向けて思考を巡らせる。このように、自分の興味のあることについて調べ上げることによって新しく見えてくるものがある。これは、自分が将来どんなことをしたいか、それが本当に自分に合っているのかを理解するうえで重要なことだ。こんな経験、平凡な高校生活ではあまり経験することはできないだろう。また、この研究を英語で発表するというのもなかなかない経験だ。将来、仕事をしていくうえで、英語の読み書きだけでなく話せるようにすることは重要だ。そういう面から見ても、この探究活動は貴重な経験だったと思える。

次に、台湾科技大学だ。ここでは自分の研究発表をした。また、将来進むことになる大学というものが一体どんなものなのかだったり、自分の研究発表の内容についてコメントしてもらったりを、実際の大学生とペアを組み、英語で話し合った。ここでの経験は、自分に自信をつけることに大きな貢献をしてくれた。英語での発表はすごく緊張したが、あんなに緊張することを乗り越えられた自分ならと考えるだけで前向きな気持ちになれるようになった。それに加え、今回のこの自分の研究発表を色々褒めていただいたことで、この自分の研究テーマは大学でも通用するのではないかと自信を持つことができた。大学生との話し合いは、とてもためになるものだった。英語を上達させるために留学することはいいことなのか、このテーマは広く知られているものなのかなど、色々質問をさせていただいた。もちろん全て完璧に英語で会話をすることはできなかったが、これをバネにもっと英語の実力を伸ばしたいと思った。

3つ目に、新北市立林口高級中学との交流だ。ここでは異文化に触れることや、この学校の生徒と交流することがメインだった。林口高級中学の学生とペアを組み、実際の授業を一緒に受けたり、部活動の体験をすることで、短時間で異文化理解を深められた。学校のカリキュラムや部活動の幅、学校内の施設の規模も大きく異なっていた。具体的には、3Dプリンターを用いての授業、選択できる第二言語の幅広さ、射撃部や天文部、プラネタリウム部もあり、整備されたグラウンドや、バスケットボールコート、バレーボールコートなど規模の大きい設備も揃っていた。生徒たちに関しても、同世代にも関わらず少し大人びているような印象だった。この体験を踏まえて、海外に行って自分の目や体で新しい文化に触れることは新しい価値観を生み出し、成長していくうえでとても大切だと感じた。

最後に、Google 支社の一つである Google Taipei への訪問だ。ここでは、主に将来のキャリアについて深く学んだ。最初は、実際に Google 社員の方が Google とはどんな会社なのかについての紹介をしてくださった。次に、社員が実際に利用してる食堂や仕事場、休憩スペースなどの見学をさせていただいた。フレ

キシブル制度を採用した労働体制、自由な仕事場に多種多様な食堂に加え、全体的に開放的で居心地の良いデザインでどれをとっても働きやすいように工夫がされているように伺えた。さすがは Google といったような感じだ。こんな職場で働けたら働くのが楽しくなりそうだなと思ったのは初めてだった。仕事は大変で一生懸命にこなさなきゃいけないものと思っていたが、Google は完全に真逆の印象を受けた。将来 Google で働かないとしても、似たような職場で働きたいと強く思った。

毎日同じことばかりで退屈だった生活が、自分の将来につなげるためにすべきことをする生活に変わった。海外研修は大変な分、新しい自分に出会える貴重な経験だと僕は思う。